

アジア・アフリカ学術基盤形成事業セミナー実施報告書

平成 21 年 11 月 12 日

独立行政法人日本学術振興会 殿

<コーディネーター

京都大学霊長類研究所・古市 剛史>

セミナー実施報告書を次のとおり作成しましたので提出します。

セ	ミ	ナ	ー	名	野生ボノボの生態学的研究：研究方法と最近の研究の成果
開	催	期	間		平成 21 年 10 月 7 日 ～ 平成 21 年 10 月 9 日 (3 日間)
開	催	地			コンゴ民主共和国赤道州マバリ、生態森林研究センター
日本側責任者	氏	名			古市 剛史
	所属機関・職名				京都大学霊長類研究所・教授
開催責任者 (※日本以外で開催の場合)	氏	名			イカリ・モンケンゴ=モ=ムペンゲ
	(英文)				(Monkengo-mo-Mpenge Ikali)
所属機関・職名					生態森林研究センター・所長
(英文)					(General director, Research Center for Ecology and Forestry)

セミナーの概要及び成果

【概要】

植民地時代の1947年に建設され、以後60年にわたってコンゴ民主共和国の森林地帯での研究を担ってきた生態森林研究センターで、ボノボの研究手法と最近の研究成果に関するワークショップを行った。

日本からの参加者の古市がボノボの研究成果を発表しながら研究計画の立案方法、調査・研究の手法などを解説した。生態森林研究センターの研究員は、ボノボをはじめ、魚類、植物など様々な分野で行ってきた各自の研究成果を発表し、古市が、学術的な観点から、研究計画や研究方法についてのサジェスションを行った。

総合討論では、学術的にはやや立ち後れている同研究所のコンゴ人研究者が、世界レベルの学術研究を行えるようになるにはどうしたら良いかという点に議論が集中した。

【成果】

今回のセミナーのおもな成果は以下のとおりである。

日本人研究者とコンゴ人研究者の間で、霊長類の生態学的比較研究のための調査方法、ワンバ地区におけるボノボの研究成果の現状、ギニア共和国およびウガンダ共和国の調査地との比較研究を行う上での今後の課題などについての情報を共有することができた。

本セミナーはコンゴ民主共和国（旧ザイール共和国）の独立後、生態森林研究センターで行われたはじめての学術的なセミナーだといっても過言ではなく、ここに所属する研究員たちはきわめて強い関心を示し、研究者としての自覚をもってもらうことに大きく貢献した。

ボノボの保護に関する報告と討論についてもさまざまな議論がなされた。この結果、ワンバ地区に生態森林研究センターの出張所を作り、最低2名の研究員を常駐させて、研究と保護の活動を推進することになった。

今後も、霊長類研究所と生態森林研究センターが強固なパートナーシップを維持して共同研究を行うとともに、日本側研究者が、生態森林研究所の研究者の育成を支援することになり、このセミナーの初期の目的は十分に達成された。

○参加者

① 「参加研究者リスト」に記入されている参加者数 6 人

（「参加研究者リスト」の研究者番号を記入してください。経費負担の別により区別すること。＜A：セミナー経費より負担。B：共同研究・研究者交流経費より負担。C：本事業経費からは負担しない。＞）（形式任意）

- | | | | |
|-----|---|------------|---------------------------|
| 1-1 | B | 京都大学霊長類研究所 | 古市 剛史 |
| 2-2 | C | 生態森林研究センター | Mulavwa, Mbangi |
| 2-3 | C | 生態森林研究センター | Yangozene, Kumugo |
| 2-4 | C | 生態森林研究センター | Yamba-Yamba, Mikwaya |
| 2-5 | C | 生態森林研究センター | Motema-Salo, Balemba |
| 2-6 | C | 生態森林研究センター | Ikali, Monkengo-mo-Mpenge |

（所長の交代により、Mwanza, Ndunda Nicholas 氏と交代）

② 「参加研究者リスト」に記入されていない一般参加者数約 35 人

○日程及び課題（セミナー関連資料があれば添付すること）

別紙報告書を参照